

村越 義人 (むらこし よしと)

昭和 56 年に映画照明器具メーカー株式会社龍電社(現・東芝ライテック)に入社，国際照明株式会社を経て，平成 9 年にライترون株式会社を設立した。海外の映画撮影機材にも精通，撮影現場に赴き照明技師との関係を築き，必要とされる様々な機材を紹介，日本の現場に合う仕様に変更させるなど，効果的な機材を生み出してきた。吉田喜重監督『嵐が丘』(昭 63)のフリッカーマシーン，黒澤明監督『八月の狂詩曲』(平 3)のイカ釣り用放電灯型集魚灯の提案，色温度可変型 LED パネルライト「ケルビンボード」の開発など，知識とアイデア，現場との深いコミュニケーションで多くの作品に貢献している。平成 30 年からは日本映画テレビ照明協会事務局長も務め，若手照明助手への情報発信にも尽力するなど，分野への貢献は多大である。

日本映画テレビ照明協会 第 25 回(平成 5 年度) 第 3 回 伊藤幸夫賞 受賞

第 47 回(平成 27 年度) 第 25 回 伊藤幸夫賞 受賞



当日上映されたスクリーン画像



望月会長もご列席された



コロナ禍の中最少人数での開催、アクリル板越しにて



受賞の挨拶